

みえU18会議 概要

開催日：令和6年8月5日（月）

場 所：三重県立四日市高等学校 多目的ホール

構 成：【第1部】日本アエロジル株式会社様から、三重県で働く魅力や仕事のやりがい等についてのお話し。

【第2部】「住みたい三重・帰ってきたい三重にするには」をテーマに、高校生と知事が意見交換。

意見交換参加者：三重県立四日市高等学校2～3年生
9名（男性：6名、女性：3名）

観覧者：三重県立四日市高等学校生徒（希望者）

●結果概要【第1部】

（日本アエロジル株式会社様）

当社はスペシャルティケミカルのグローバル企業、エボニック インダストリーズ（本社：ドイツ）の一員で、グループとしては、3万3千人以上の従業員を擁し、100か国以上でビジネスを展開している。全世界の中で、フュームドシリカの製造と研究を行っているのは日本とドイツで、四日市は重要な拠点である。当社は、世界トップレベルのフュームドシリカ生産量を誇っている。身近にある様々な物（トナー、医薬品、タブレット菓子、化粧品等）や、電材及びスマートフォンに欠かせない半導体の製造工程にも、当社の製品が使われている。また、次世代の産業分野への製品開発・市場開発にも力を入れており、電気自動車等のリチウムイオンバッテリーのセパレーター製造にも当社の製品が使用されている。

四日市工場では、生産技術・製造、研究、品質を維持するための品質管理、設備を含めた安全・保安全管理、在庫管理、購買、総務等の仕事がある。東京本社では、人事、マネジメントの経営管理、販売・マーケティング、財務・経理、コンプライアンス、広報等の仕事がある。

仕事内容によっては、東京本社でも四日市工場でも働くことが出来る。少子化対策としても、柔軟な働き方を実現する仕組みづくりを当社では行っている。

次に、購買の仕事について紹介する。普段皆さんも物を買うときに、複数店で価格を比べたり、品質や性能を比べたり、求めている納期に間に合うのか等を気にするだろう。それと同様のことを、会社規模で行うのが購買の仕事だ。当社では、QCDS+ α という観点で調達を行っている。Q=クオリティ（品質に見合ったものか）、C=コスト（価格が適切か）、D=デリバリー（納期に間に合うのか、安定供給に問題がないのか）、S=サービスを指す。「+ α 」として、仕入先の会社の経営状況に問題がないか、SDGsや人権に違反していないか、環境に配慮しているかといった観点でも検討し、調達先を決定する。

取引先は中国やドイツにもわたるため、日々海外の同僚とコミュニケーションをとる。コロナ禍では、中国のゼロコロナ政策によって、原材料の調達に大変苦労した。当時は、日々状況が変わる中で、現地の人と対応を模索した。

高校生の皆さんに伝えたいことが3つある。1つ目は、英語の重要性。仕事は自分1人では出来ないため、同僚に自分の意見を伝えたり、相手の意見を理解する必要がある。2つ目は、多様性の尊重。相手を理解するにはその人の文化や背景を理解することが大事。3つ目は、社会人生活の楽しさ。社会人になると責任も伴うが、経験を積みながらお金を稼げ、自由に時間を使うことが出来る。

学生との交流や知名度向上のための活動として、大学生にドイツ企業への理解を深めてもらうことを目的とした在日ドイツ商工会議所主催のイベントなどにも参加している。外資系である当社は、多様性を重視している。性別がどうかではなくて、バックグラウンドや経験を大事にする。決して無駄にはならないので、色々な経験をして欲しい。

三重県には、化学業界の名立たるメーカーが多くあるので、まずは興味を持って欲しい。当社四日市工場でしか作れない製品もあって、工場の操業が止まると日本経済に影響が出てしまう。そういった重要性を改めて認識いただけたらと思う。

(質疑応答)

Q：製品を企業に販売していると思うが、どのようなアプローチをしているのか。

A：B to B (ビジネスツービジネス) でやっており、商品を商社や製造業に販売している。当社が、「この商品をこの様に使ってください」とアプローチするのではなく、お客様側が当社製品の使い方や生かし方を検討する。例えば水質汚染への対応策として、シリカの吸着性能を利用するか、活性炭フィルターを用いるのかは、専門性のある人が試験をしたりコスト比較をして決定するもの。よって、幅広いネットワークを持っていないと我々のビジネスは成り立たない。そして、歴史や、製品の用途や社名の認知度と、人間関係が大事。

Q：海外の企業と取引をする中で、日本の企業との違いはどこにあると感じるか。

A：日本が優れているのは、品質。裏を返せば、品質過剰になり過ぎる面もある。例えば、日本はスーパーでは商品がしっかり包装されているが、海外では何も梱包されておらず、環境への配慮がされていて、その分安価で合理的。現在、四日市工場では新プラントを建設していて、ドイツのエンジニアが頻繁にやってくる。新プラントを四日市工場内に作るに至った理由は、日本人は信頼できて技術力が高いということ。逆にマイナスな面は、自分の意見を言わないこと。会議の場で、「私も同じです」と言ったり、何も発言しないのも弱いところ。しっかりと自分の考えを持って、自分の意見を人に伝え、理解してもらうことが社会におけるコミュニケーション能力であり、その能力をどんどん身に付けていって欲しい。



●結果概要【第2部】

(意見交換の趣旨)

「住み続けたい三重・帰ってきたい三重」にするには、何が必要かを教えて欲しい。

<意見交換①>どのようなライフプランを考えているか

…将来(例えば、約25年後の2050年)、どこでどうしていただきたいか

(高校生)

- 日本経済の中心地である東京で、金融工学を学びたい。日経STOCKリーグで半導体の勉強をして、経済が面白いと思った。大学卒業後はアメリカの大学院で、英語力と金融工学の専門知識を蓄えて、その時に自分がやりたいことをしたい。日経STOCKリーグをきっかけに、三重県が電子部品の製造額全国1位だと初めて知った。三重県はすごいと思った。
- 東京の工学部を志望している。科学の甲子園に参加して企業の方の話を聞いたり、学校で勉強する内容が世の中で使われていると知ったりした。自分の好きなものを社会に応用できたら面白い。田舎で生活したいが、一方で、最先端技術に関わりながら、社会にインパクトを与えられるような仕事もしたい。田舎で暮らしやすく、企業とのアクセスも良いところに住みたいと思う。
- 三大都市圏の文学部を志望している。多分、真面目に就職を考えている人は文学部をめざさない。文学部を出ている人は収入が少ないらしいが、文学が面白いから志望している。安定性はあまり求めていなくて、世界に出ていきたい。語学や自分の経験を全部使える国際的な仕事を海外でやりたい。
- 経済学部を志望している。年代や国籍に関わらず、色々な人と交流し、海外の様々な文化や価値観に触れる経験をしたい。三重県に戻ってきたいという考えはあまり無かったが、この会議をきっかけに三重県の良いところを知った。普段交流の少ない近所の大人とイベントをきっかけに話せて楽しかった。結婚した際に、三重県に戻って落ち着くことも候補の一つにしたい。
- 東京の法学部を志望している。世界を相手にした仕事をしたいので、国際法を学びたい。色々な人と交流するために、多くの言語も学びたい。大学卒業後は海外の大学に進学し、知見を広めてから日本に戻ってきたい。代々家族が三重県にいるので、将来は三重県に戻ってきたい気持ちがあるが、津波の心配が無いところに住みたい。

(知事)

- 目標や何のためにそれをやるのかを自らが持っていることは大事。三重県に残ってとは言わないが、日本や世界のために働いていただけたらいいと思う。例えば三重県に住みながら東京の仕事も出来るし、二地域居住というスタイルもある。郷土教育は小学校で学ぶが、中学3年生から高校1年生頃でも学ぶべきだと思っている。今後世界と繋がって仕事をしていくことにもなるので、複数の外国語と日本やふるさとのことをしっかり学ぶことが大事。

(高校生)

- 首都圏の経済や金融学部を志望している。日経STOCKリーグに参加して、世界経済に興味があった。大学卒業後は、海外に住みたい希望もあるが、家族を持って家建てるのだとした

ら三重県に戻ってきたいという気持ちがある。三重県には親が居るし、良いところだと思うので、安定した生活を送るのなら三重県に住みたいと思う。

○東京の経営や商学部を志望している。東京のラジオ局が好きで、マスコミに興味がある。東京の大学生から、東京方面での就職を考えているのなら大学も東京圏がいいよとアドバイスもらった。40才代になったら、家庭を持っているのが理想。東京ではなくて、地元に戻ってきて、仕事を続けながら子育てをしたい。

○県外の文学や外国語学部を志望している。小説を読んだり海外の人の演説を聞いたりしていると、宗教の要素が入っているので、理解をしたい。海外の歴史や宗教を学んで、将来は、海外に行き仕事をしたい。

○三大都市圏の理系を志望している。幼い頃からゲームが好きでIT系に興味がある。最近文系にも興味を沸かせてきて、出版社などで文章を書きたいという希望もある。都市圏は、様々な人と出会えることが魅力。

(知事)

○東京には人、情報、お金、知識が集積していて、色々なことを吸収できるメリットがある。最近IT化が進んで、地方でも情報の収集やコミュニケーションをとることが出来る。東京のデメリットは、地価が高い、将来介護難民が出るとも言われている。三重県の魅力は、自然環境が良いところや子どもが生まれたときに周りの親戚も面倒をみてくれるところ。

<意見交換②> 三重県へ帰ってくる人（Uターン）や、東京圏から移住する人を増やすために、改善すべきことは何か

(高校生)

○住みやすいので不満は感じないが、+αすべきなのは企業誘致、観光設備、交通だと考えた。共通する懸念点は、南海トラフ地震。交通利便性が良く名古屋にも近い臨海部に、安心して立地できる三重になれば、多くの企業が進出するのではないかと。自宅の周りには避難所が少なく、高齢者が多い割に行きやすい距離に避難所が無い。命を守る避難グッズを各家庭に送ってもらえると、危機意識醸成や安心感にも繋がると思う。

○三重県は丁度良い田舎で好きだから、三重県に住むという選択肢は自分の中で大きい。商店街の近くに住んでいるので、治安が悪く夜に歩くのが怖い。駅近くの駐輪場が撤去されてしまい、仕方がなく歩く時もある。駐輪禁止エリアにも駐車されていて、整備が必要だと感じた。

○大学収容力が無く進学のために県外へ出ていく人が多いので、その後どうしたら三重県に戻ってきてくれるのかを考えた。三重県でもインターシップの推進に取り組んでいるが、半導体や世界トップレベルの企業があることが知られていない。例えば、企業と連携し、空き家を宿泊施設にして、夏休みなどに長期滞在しビジネスプランを考えてもらうのはどうか。費用面や宿泊施設を支援してもらえると、三重県に来やすいのではないかと。車の運転ができないので、津駅周辺と津新町駅周辺を電車移動もするが、駅からのバスが無いのが不便。

○東京の大学に進学した人が就職先を考えるときには、三重県よりも東京の方が有力視されるのではないかと。そうしたときに、三重県の企業情報や都道府県別経済的豊かさ1位ということ

知っていれば、選択肢として三重県が浮上してくるのではないか。三重県の良いところを全国に発信していくことが大事。三重県公式YouTubeチャンネルの登録者数や再生回数が少ない。観光三重のチャンネルには、面白い動画があがっていて再生回数が多い。真面目な情報発信をしても届かないので、ユーモアも入れて欲しい。

○マッチングアプリの利用に不安があり、学校や職場で出会った方が結婚に踏み込みやすいと思うので、職場婚を推進している企業をサポートすれば結婚する人が増えるのではないか。私の周りの女性は、まだ働きたいけれど出産を機に退職すると聞く。中小企業では、上司から女性だからどうのこうのと言われることがあると聞いた。中小企業でもジェンダーギャップが解消されれば、三重県で就職したいなと思える女の子も増えるのではないか。

(知事)

○日本の人口が減る中で、外国人観光客に来てもらわないと地域の発展は望めない。三重県の良さをどんどん発信していかなければならない。昨年度津高校でみえU18会議を開催したときも情報発信についての意見が出て、公式LINEでの就職情報等の配信を開始した。三重県のジェンダーギャップ(経済分野)は、全国46位。男性の給料が高いという理由もあるが、女性の働く場が少ない問題もある。よって、本社機能を東京から移転して欲しいと言っている。ジェンダーギャップ解消に向けては、中小企業のトップの意識を変えないといけない。

(高校生)

○大学進学で県外に出ていった人が戻ってくるには、三重県の良さを理解していることが大事。親が三重県のことを好きなので、自分も良さを理解出来ている。三重県の良さを知る機会がもっと増えると良い。日本の人口が減っていく中で、働きに来た外国人が、そのまま三重県に住みたいと思ってもらえるような環境であって欲しい。

○小学校では、住んでいる市のことを学ぶ時間があった。高校では、地元企業の方と話す機会もある。就職希望者向けの企業説明会はやっていると思うが、大学進学希望の学生にも三重県の企業をもっと知ってもらうことで、いずれ三重県に戻ってきて働く人も増えるのではないか。

○鈴鹿に住んでいる。ブラジルやインドネシアの人が多い。外国人の受入が重要だが、道路標識の外国語対応が不十分だと思う。外国語を話せるスタッフが増えるといいと思う。三重県内に無い学部もあるので、その点が改善されたら良い。そうすれば、地元進学者は地元就職の意向が強いというデータがあるので、三重県に就職する人が増えるのではないか。

○大学を作っても、元々ある他県の大学の魅力に劣ってしまう。移住者は、子育て世代が多いと思う。子育て世代にとっては、公園や商業施設があると良いのではないか。いなべ市は公園は多いが、コンビニが周りに少なくて車が運転出来ないと不便。もっとバス等を増やす必要があると思う。

(知事)

○他県の例で、県立大学の県内就職率が低いという現状がある。三重県に残ってもらうために大学を作るということには疑問もあって、むしろ働く場所が問題。県外大学に進んで学んでもいいこと。企業誘致も大事で、リニア中央新幹線の開業を契機とした誘致にも取り組まなければならない。

(高校生)

○産業集積といえば臨海部しかイメージが無かった。内陸部である亀山市のリニア三重県駅をどう生かすのかを知りたい。

(知事)

○コンビナートは臨海部にあつて船から荷揚げや荷下ろしをするが、例えば半導体製造には水、電力、人材があれば良いので臨海部に限らない。リニア駅の設置によって人が往来し、企業の立地もすすむと考える。

(高校生)

○伊勢神宮や鈴鹿サーキットといったトップレベルの魅力をもっと宣伝すれば、来訪者が増えるのではないかと。茨城県ではV t u b e r を使って情報発信をしている。こういうことをしないと情報が届かないのではないかと。

(知事)

○若い人の発想で、情報発信のことを考えていかなければならない。東京の駅で、三重県の魅力を発信し始めた。SNSも使っていく必要がある。観光をきっかけに三重県に移住してもらうことも良い。三重県は、東京と大阪の間にある利点がある。北部は産業、南部は観光や農業が発展することで、働く人を増やす必要がある。

(高校生)

○社会減対策と自然減対策はいずれも重要だと思うが、どのような考えか。

(知事)

○自然減については、合計特殊出生率の低下が問題で、国全体で考える必要がある。地方でできることもあって、子育て環境の整備や、子育て家庭への寄り添いやアドバイスも進めていく必要がある。人口減少対策方針を策定し、自然減と社会減両方の対策に取り組んでいる。

(知事)

○住んでいる地域によって、「こうして欲しい」という意見も異なっていた。皆さん三重県が好きで、今後も三重県との繋がりを持ち続けていただけるのではないかと感じた。三重県の情報発信していくので、三重県への興味を失わずに、大学進学後には友達に三重県の良さを教えられるよう、これからも勉強していただきたい。

